



「知的生産の技術」

高校I学年主任・理科 大川徹
梅棹忠夫/著・(株)岩波書店/発行

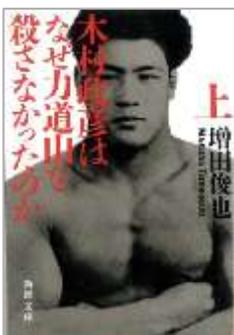
この本では、知的生産とは「頭を働かせて、何か新しいことを、ひとに分かるかたちで提供すること」と記しています。頭をはたらかせ、人にわかるかたちに自分の考えを落とし込むためのヒントが「規格化」と「単位化」です。この技術により生産性が向上します。



「木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか」

高校I学年A組担任・公民 増田広和
増田俊也/著・(株)新潮社/発行

史上最強の柔道家と言われた木村政彦先生は、一度の敗北で人生が大きく変わった。この本には著者の気持ちがあらわれているところもあるが、読み進めるほどのめりこんでいく内容である!長編作品ですが、読んでみる価値あります!



「佐倉惣五郎と宗吾信仰」

高校I学年B組担任兼地歴科主任・地歴 香取義人
鏑木行廣/著・斎書房出版(株)/発行

「佐倉惣五郎」、江戸時代、佐倉藩の重税に苦しむ農民を救済するために禁止されている直訴を行った義民です。その惣五郎と惣五郎への信仰である宗吾信仰について書かれているのがこの本です。著者は本校の卒業生であり、また元本校教諭の鏑木行廣先生、千葉県を代表する郷土史家です。成田高校の大先輩が地元の歴史について書かれた本、歴史好きには必見です。



「行動経済学が最強の学問である」

高校I学年C組担任・数学 滝浦秀平
相良奈美香/著・SBクリエイティブ(株)/発行

私たちが普段何気なくとっている行動や習慣には周囲の環境や人間の心理に関する要因が大きく影響しています。その要因に関することをわかりやすく書いている本です。この本を読めば、勉強する気になれない毎日の習慣が変えられるかも?



「客観性の落とし穴」

高校I学年D組担任・数学 古川能久
村上靖彦/著・(株)筑摩書房/発行

探究で「量的研究」と「質的研究」について学んだが、前者はイメージしやすく後者は客観性を重視する今を生きるみんなにとってはなじみにくい。そこでこの本を読んで思考の幅を広げよう。一度読んだらもう「それってあなたの感想ですよ」なんて言えない。



「白ゆき姫殺人事件」

高校I学年E組担任・数学 伊藤昭文
湊かなえ/著・(株)集英社/発行

現在ではインターネットが普及し、誤った情報もSNSやネットニュースなどを通じて一瞬で世の中に拡散されてしまい、一度拡散されるとそれが事実であるかのように扱われてしまいます。そんなネットやメディアの持つ危険性を一つの事件を題材に描いています。



「なんのために学ぶのか」

高校I学年F組担任・国語 尾形優
池上彰/著・SBクリエイティブ(株)/発行

みなさんは勉強を「なんのために学びますか。」。この本を読み、一生学ぶことの大切さ、知識を得ることは無限大だと言うことを知りました。作者はどの環境でも努力し、学び続け、自分から酷な環境を希望したことなど、働くことや学ぶ姿勢が勉強になる一冊です。



「みんなの空想地図」

高校I学年G組担任・数学 羽端彩宏
今和泉隆行/著・(株)白水社/発行

自分オリジナルの地図を描く。小さいころ誰もがやったことがあるのではないのでしょうか?この本では実際の都市をもとに空想の都市を描いています。人の動きなど、昔は考えていなかったような視点から創造している面白い一冊です。地理好きの人はぜひ!



「若きアスリートへの手紙<競技する身体>の哲学」

高校I学年H組担任・理科 山田恵子
町田樹/著・(株)山と溪谷社/発行

元フィギュアスケーターでスポーツ科学研究者の町田樹が、自身の経験と研究に基づいて語った『アスリートへの愛ある手紙』。コツをつかむコツ、スランプ脱出法、ライバルとは誰か…スポーツをしていない人でも、誰しもが直面する課題について哲学的に語る本。



「そして誰もゆとらなくなった」

保健部長・高校養護 戸村路津
朝井リョウ/著・(株)文藝春秋/発行

おなかが弱くて困っているみなさん、筆者の朝井さんはそんなあなたのつらい気持ちをわかってくれる人、かもしれない。“ゆとり世代”の筆者の、日常、非日常面白エピソードの中に織り込まれたおなかが弱い当事者ならではのリアル?に、私はちょっと救われた(私も当事者)。「時をかけるゆとり」「風と共にゆとりぬ」に続くエッセイ第3弾。おなかが弱い系のみなさんにはぜひ前2作を先に読んでほしい。

